

農政の動き 2014年5月30日～6月5日

◇13年産米 4月の相対価格は1万4663円

農林水産省は、2013年産米の4月の相対取引価格（全銘柄平均）は、前年同月比11.2%（1845円）安の60キロ当たり1万4663円と発表した。前月比では1.5%高となった。ただ、4月からの消費税増税分（3%）が含まれている。全国の集荷数量（玄米）344万2千トンのうち、事前契約は38%と前年同期比で5ポイント減、全国の民間在庫量は30万トン増の258万トンだった。（2014年5月30日）

◇3～5月の日照時間 17地点で最多記録更新

気象庁は、春（3～5月）の天候まとめを公表した。日照時間は北日本から西日本にかけてかなり多く、室蘭（北海道）など17地点で同期間としては統計開始（1946年）以降最多記録を更新した。平均気温は東・西日本で高かった。（6月1日）

◇TPP対策本部 日米協議は「一進一退」

政府のTPP対策本部は、東京都内で業界団体説明会を開き、環太平洋連携協定（TPP）交渉に伴う日米協議の状況は「一進一退だ」と報告した。ルール分野では、新薬の特許権などを扱う知的財産で議論が停滞していると説明した。説明会には218団体が出席。市民団体などから交渉内容の情報開示を求める意見などが挙げられた。（2日）

◇全国中山間地域振興対策協議会が定期総会

中山間地域を抱える都道府県や市町村で構成する全国中山間地域振興対策協議会は、都内で定期総会を開き、2014年度事業計画を決めた。定住促進や中山間地域等直接支払制度の円滑な推進に向けた情報提供や働き掛けなどを強化する。また、山梨市牧丘町でブドウ生産や農業体験の受け入れなどを行う株式会社hotto（ホトト）の水上篤代表が、中山間地域でのビジネスモデルなどをテーマに講演。生産から販売まで地域内で回し、雇用を増やすことが重要と述べ「その場所にしかないオリジナルのものにチャレンジし、情報を広く発信すべきだ」と強調した。（2日）

◇14年産温州ミカン 適正出荷量は80万トン

農林水産省は、2014年産温州ミカンとリンゴの適正出荷見通しを発表した。裏年となる温州ミカンの予想生産量は前の裏年となる12年産生産実績比4万トン増の89万トンで、需要量は94万トン程度と予測。適正生産量は89万トンで適正出荷量は80万トン（生食用72万トン、加工原料用8万トン）とした。リンゴの予想生産量は13年産実績比6万トン増の80万トンで、需要量は83万トン程度と予想。適正生産量は80万トン、適正出荷量は71万1千トン（生食用60万2千トン、加工原料用10万9千トン）とした。（4日）

◇自民党 子どもの農村体験推進へ法律案を了承

自民党は、農林・文部科学・総務・環境の各部会合同会議を開き「学校教育等における子ども滞在型農山漁村体験教育の推進に関する法律案」を了承した。体験教育は、小学校などにおける教育活動として1週間程度行うものなどと規定。農山漁村の若者や住民の創意工夫を生かすなど多様な参加者の協力で受け入れを実施するとした。文科相、農相、総務相、環境相が策定する基本方針に基づき、都道府県・市町村は推進計画を作成。体験教育の実施に係る必要な施策や財政措置を講じる旨を明記した。今後は党内手続きなどを進め、議員立法での国会提出を目指す。(5日)